

二町内自治会新聞

地球環境を考えよう ①

京都議定書

最近国会や国際会議の場で、京都議定書をめぐって熱く議論が繰り返されています。

今から五年前京都において先進諸国の環境サミットが開催され、京都議定書が合意されました。

内容は、各国が千九百九十年のレベルに遡り二酸化炭素の排出量のある一定量削減しようということになりました。我が日本は、六パーセント、アメリカ七パーセント、ヨーロッパ八パーセントとなりました。

そして来年が発行の年になっております。所がアメリカが突然止めると言い出しました。ヨーロッパは、アメリカ抜きでもやろうと言っています。日本がどちらに付くかが大きな問題となっております。

京都議定書の意義

二十世紀の後半から地球の温暖化が進み、高山帯の氷河や南極の氷山が解け始めました。このまま解け続けますと海面が上昇していきます。

海岸線に集中する世界の大都市が海面下に沈むと言ったことになりました。

異常な温暖化の原因が二酸化炭素によるものと言ったことになりました。年々地球を取り巻く二酸化炭素の層は、厚くなっていくそうです。

丁度着物を重ね着するように。この事を食い止めるためには、二酸化炭素の排出量をへさなければならぬ事になります。

その大半は、先進諸国によるものと言われております。当然、先頭を切った先進諸国が二酸化炭素の削減をしなければならぬ事になります。では、何故アメリカが

事務局
村上徹郎
Tel. 368-5384
住所 健軍本町 26-3

京都議定書に反対しているのでしょうか。

現在の産業を維持し、発展させるためには、石油や石炭を燃焼させ、二酸化炭素を放出しなければなりません。

この問題は、地球環境と国のエゴがセットになっている所に難しさが有ります。アメリカは、国のエゴを優先させたことになりました。

発展途上国も豊かさを求めて、産業の発展を目指しております。二酸化炭素の排出量は、益々増加していくものと思われ

現在、全世界が二酸化炭素の排出の削減に取り組みなければ異常気象を引き起こしたり海面下に沈む国が出てくることになるでしょう。

先進諸国は、この事を阻止するために石油や石炭に変わるエネルギーの開発を成すべきでしょう。原子力発電、太陽エネルギー、風力発電、

地熱発電、水素エネルギー等開発を進め、全世界の発展途上国へ技術を移転し石油、石炭のエネルギーから脱却を図らなければならぬと思えます。

このような意味からも京都議定書が批准され、全世界が二酸化炭素の削減に向かって努力をする口火を切った欲しいと強く期待するものです。

次回は、市民レベルで考える地球環境を述べて見たいと思えます。

『公園の花植え』

七月二十日午前七時より二町内の中学生と本町公園愛護会のおじいちゃん、おばーちゃん合わせて約百名で公園の花植えをしました。生い茂る雑草を取り、耕すのが大変でした。互いに協力し合

ってマリーゴールド、メランポジウム五百株を植え付けました。公園は、見違えるように美しく賑やかになりました。錦が丘中学からは校長先生、生徒指導の先生、湖東中学からは三名

の先生がかけつけられ、公園愛護会のおじいちゃん、おばーちゃんも大変喜んでおられました。

中学生の皆さんは、これをきっかけに人から喜ばれるようなボランティアをどんどんやって欲しいと思います。人から感謝されることは、とても気持ちの良いものです。

『町内夏祭り』

町内の皆さんには、プログラムが配られていると思いますが皆さんの後押しを得て、八月四日に開催します。内容も

昨年以上に充実しているものと思っております。また、食バザーも美味しい物を取り揃えておりますので、「家族おそろいでお出でくださいませ。

今回は、隣保組長さんの働きにより、協賛者が大幅に増やすことが出来ました。

我々が目指している全町民の夏祭りに大きく前進したことに大いに満足しています。

朝のラジオ体操

四月十二日に発足したラジオ体操クラブも参加者が増え、多い時は、三十名近くにもなっています。体操が終わった公園のゴミまで拾う等ボランティア活動まで発展しております。とっても素晴らしいことだと思えます。

夏休みになって、小学生も参加するようになりました。おじいちゃん、おばあちゃん達と孫が一緒にラジオ体操をする光景は、とってもほほ笑ましいものですね。

おじいちゃん、おばあちゃんも何時もより張り切っておられるようにお見受けしました。

子ども達の安全

夏休みは、学校から地域へ帰ってきます。地域は、子ども達にとって、安全な場所でありたいと思います。挨拶を掛け合って、やさしく見守ってやりましょう。しかし、いけない事をやっている時は、注意しましょう。